

特定非営利活動法人
トチギ環境未来基地

平成 30 年度

(平成 30 年 4 月 1 日 ~ 平成 31 年 3 月 31 日)

事業計画書



平成 30 年度 重要方針

時代の変化や団体の特色を把握しながら、事業を充実させていく。事業の取捨選択も改めて行い、これから特に力を入れる事業を選択、事業を継続発展させていくために不可欠な財政基盤の強化につとめる。

○森林・里山×社会的テーマを、それぞれ形に

これまで他団体とも協力を図りながらつくってきた、森林・里山×社会的テーマの活動を、より見える形で、よりテーマにおける成果を意識しながら一つひとつを形にする。SDGs の目標が社会の中での共有が人がる過程で、これを推進していくためには、具体的な事例は大きな力になる。

- ・「子どもの里山」、「福祉の森」、「若者支援の森」、「健康長寿の森」、「国際交流の森」、「食を守る森」など、分野連携による里山整備、活用のモデルをつくり、発信する
- ・各活動フィールドで「森のオープンデー」を実施、いろいろな人に森にきてもらう仕組みを増やす。

○企業など、他のセクターとの活動を増やす

SDGs 達成への貢献を切り口に、より間口を広げた形で企業等との連携を形にしていく。荒れゆく里山を手入れし、豊かに維持していくためには多くの人たちの力が必要である。

- ・企業との活動の実施 新規 1 つ増やす
- ・SDGs 達成への貢献としてスポンサーを募る

○人材育成を事業に

これまで里山フィールドや作業の機会を通じた人材育成を、森づくりリーダー育成、企業の新入社員研修の実施として実施してきた。これらの経験も活かし、「若手 NPO 職員向けの研修」をプログラムとしてまとめ、栃木県内の N P O の強化に貢献する。

- ・若手N P O職員向け研修の実施 (年 1 – 2 回)

○会員を増やす／支援者を増やす

会員を増やし、会員の活動を活発にすることで、現場で活動を行うときの広報の労力削減や会員の力をいかした活動基盤の強化を図る。寄付基盤強化のために、マンスリーサポーターを増やす。

- ・会員 80 人
- ・マンスリーサポーター 100 人

○プログラムの明確化。それぞれのプログラムに適切な参加者を得られる仕組みに。

Conservation Corps プログラムはそのプログラムの意義や位置づけをより明確にする。プログラムの効果を高めるために期間の変更 (6 ヶ月プログラム) も検討し準備する。

○新しい有償整備フィールドの獲得

より多くの人たちとの活動をやりやすくするために、宇都宮市内のアクセスがいいところに、新たな作業フィールドを確保する。

平成 30 年度 事業一覧

1. 若者の社会貢献活動拠点づくり事業
2. 若者のチームによる長期間の森林、自然、地域保全活動 (Tochigi Conservation Corps) 事業
 - ① Tochigi Conservation Corps プログラム 2017 春 (第 18 期)
 - ② Tochigi Conservation Corps プログラム 2017 秋 (第 19 期)
3. 自然環境の保全、再生、活用に関する事業
 - ① ボランティアによる森づくり事業 (一部、フィランソロピー助成)
 - ② 里山×他分野連携事業 (他分野連携・地球環境基金助成。こども・東京ガス寄付)
 - ③ 企業・グループボランティアの受け入れ事業 (ホンダトレーディング、シティズン、NTT 栃木+1)
4. 地域・環境活動リーダーの育成事業
 - ① 若者森づくりボランティアリーダー研修 (年 2 回)
 - ② 若手 NPO スタッフ向け研修の実施 (夏、冬 2 回)
5. 災害からの復旧・復興に関する事業
 - ① 福島県いわき市での、海岸林再生、「苗木 for いわき」プロジェクトへの協力
6. バイオマス資源の活用推進に関する事業
 - ① 木工クラフト教室、木工クラフトを活用した応援会員の獲得
7. 若者自立支援団体との連携による、人と緑を育む森づくり事業
 - ① 若者自立支援団体の日帰り活動の企画運営 (しごとや)
 - ② 集中訓練短期合宿プログラムの運営 (年 2 回)
 - ③ 「みどりの中間的就労訓練プログラム」創出事業
 - ④ ひきこもりの若者向け 1 泊 2 日合宿プログラムの実施 (自主事業)
8. 国際ボランティアの受け入れを通じた、国際協力事業
 - ① パラワンワークキャンプの開催

2. 若者による、森林、自然環境、地域再生活動、Tochigi Conservation Corps の実施

① Tochigi Conservation Corps プログラム 2018 春（第 18 期）

期 間 平成 30 年 5 月 9 日（水）～7 月 28 日（土） 3 カ月

目 的 米国の Conservation Corps をモデルとした、若者のチームによる長期間の環境保全活動の日本版の確立。作業の成果と若者の育成の両立を図る。日本の環境保全活動の質を高める。

内 容 プログラム中の活動、作業内容

1. 各フィールドの整備作業
2. 各種イベントの運営、参加
3. 学習・技術研修

参 加 者 全期間参加者 5 人

重点 メンバーにやってもらいたいことをオリエンテーションで明確に伝える

プログラムで学べることを明確にして参加者募集に活かす

学習（NPO について）：日本の事例と海外の事例など

参加費設定（45,000 円）：5,000 円会費を込みで広報する

② Tochigi Conservation Corps プログラム 2017 秋（第 19 期）

期 間 平成 29 年 9 月 5 日（水）～11 月 24 日（土） 3 ヶ月

目 的 米国の Conservation Corps をモデルとした、若者のチームによる長期間の環境保全活動の日本版の確立。作業の成果と若者の育成の両立を図る。日本の環境保全活動の質を高める。

内 容 プログラム中の活動、作業内容

1. 各フィールドの整備作業
2. 各種イベントの運営、参加
3. 学習・技術研修

参 加 者 全期間参加者 5 人

重点 外国人ルーツの子ども向けキャンプをする

参加者を募集する（日本 2 人、アジア 3 人）

3. 自然環境の保全、再生、活用に関する事業

① ボランティアによる森づくり事業

期 間 平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月

目 的 栃木県内の里山、都市型緑地の整備を行い、より良い自然環境を生み出す。また、ボランティアと一緒に作業することを増やし、より多くの人たちを巻き込みながら整備を行う。

内 容 ・里山、竹林整備活動

《子どもが遊べる森》

- ・創造の森（こども園の森）
- ・やっほうの森（森のようちえんの森）
- ・希望の丘（地域の子どもの森）

《地域の憩いの森》

- ・美里の森（福祉施設の森）
- ・ふじ山（サシバの里の里山）

《自然の多様性を守る森》

- ・刈生田の森（サシバの里の里山）
- ・竹原の森（那珂川流域の竹林）
- ・瑞穂野の森（街中の平地林）
- ・フクロウの住む小宅古墳群の整備（検討中）

目 標 参加者数 2,000 人

備 考 一部、フィランソロピーバンクによる寄付助成活動

Save Japan による助成活動（検討中）

また、管理者からの作業委託費で作業を実施する

② 森林・里山×社会的テーマ連携事業

期 間 平成 30 年 4 月 ～ 平成 31 年 3 月

目 的 これから森林や里山を守っていくためには、森の整備を進めることと同時に、現代に合った形で森に価値を付加していくことが大切である。森林と福祉、森林と教育、森林と国際交流など森の新たな活用方法を形にする。

内 容 森林・里山×他分野の団体との連携による作業、活動の実施

作業の面では、多様な人たちとの森づくりボランティア活動を形にする（親子、ひきこもりなど）

里山で社会的テーマの面では、それぞれのテーマのシンボリックなイベントを各 1 つ形にする

（障がい者と一緒に森で交流、国際交流イベントを森でなど）

目 標 各テーマで 1 つ、イベントを形にする。

社会的テーマを入口にした、里山ボランティア活動を広げる

（福祉を学ぶ学生が、福祉を切り口へ森へなど）

① 里山×若者支援＝日帰り／短期合宿プログラム、ボランティアの機会

② 里山×子どもの自然体験＝とちぎ YMCA、創造の森のイベント、

③ 里山×親子協力イベント＝森で遊び隊主催企画

④ 里山×子どもの貧困＝サマーキャンプ、ウィンターキャンプ

⑤ 里山×福祉＝障がいを持った方たちを里山に呼ぶイベント

⑥ 里山×国際交流＝外国にルーツをもつ子どものキャンプ、国際交流協会や留学生とのボランティア活

動

備 考 地球環境基金助成事業 、東京ガス寄付

③ 企業・グループボランティアの受け入れ、協力

期 間 平成 30 年 4 月 ～ 平成 31 年 3 月

目 的 「誰でもできる森づくり」の枠を広げ、積極的にグループの活動を受け入れる。

SDGs 達成への貢献を前面に出し、より具体的な提案を企業等に行う。協力は、現場でのボランティア活動の実施だけでなく、活動へのスポンサーなど、より幅を広げる。

内 容 企業などの団体、グループの受け入れを行う。要望に応じた研修内容もプログラムに組み込む。

1 シティ즌 年 4 回 (新入社員研修 3 回 + 社会貢献活動 1 回)

2 ホンダトレーディング 年 1 回 (新入社員研修)

3 NTT 栃木 年 2 回 (社会貢献活動)

4 とちぎユースサポートーズネットワーク 地域づくり担い手育成事業

5 とちぎ学生創造未来会議 1, 2 回

6 国際ユースワークキャンプ受入 1 回

7 新規企業

目 標 企業・団体の受け入れ回数 6 回

SDGs を切り口とした提案の作成と、営業。新規 1 件獲得

4. 地域・環境活動リーダーの養成事業

① 若者森づくりボランティアリーダー研修

期 間 平成 29 年 4 月～平成 30 年 (CC にあわせて、年 2 回)

目 的 これからの中の森林、里山ボランティア活動を担う若い活動リーダーを養成する
チェーンソー、リーダーの回を別日に実施する

② 若手 N P O スタッフ向け研修

今後の栃木県の N P O を担う若手 N P O スタッフの研修を行う

年 2 回 1 泊 2 日 参加者 10 人

5. 災害からの復旧、復興に関する事業

① 福島県いわき市での、海岸林再生、「苗木 for いわき」プロジェクトへの協力

期 間 平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

目 的 いわき市の美しい海岸林の再生に向け、市民の力を集め活動を行う。海岸林の清掃や整備、市民の寄付を集め、市民に苗木を育ててもらい植林を行う。

内 容 現場でのボランティア活動、栃木県内のクロマツパートナーのサポート、たいらや募金回収

6. バイオマス資源の活用推進に関する事業

① 木工クラフト教室、木工クラフトを活用したイベントの実施

期 間 平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月

目 的 木材の有効活用を進めるとともに、地元の木の良さを楽しい木工クラフトを通じて知ってもらう機会をつくる。

内 容 森林、里山の整備で出た木材を活用し、木工クラフトキットを制作。木工クラフト教室を開催
コンセーレ、エコフェスタ、羽ばたき、富士通小山工場イベント

7. 若者の自立支援団体と連携による、人と緑を育む森づくり事業

① ② サポステ集中訓練・日帰り／短期合宿プログラム事業

期間・時期 平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月

目 的 若者支援団体を利用する若者たちの力を環境保全活動に繋げる。参加した若者たちが力をつけ、視野を広げられるプログラムとする。合宿型の良さを活かしたプログラムを構築。

内 容 日帰り栃木県若年者支援機構の集中訓練プログラムとして実施する

合宿 栃木県若年者支援機構の集中訓練プログラム合宿として 2 回実施する

目 標 参加した若者の状態変化（元気になる、コミュニケーション力の向上、前向きな意欲の向上、森林、環境への興味向上）

③ 「みどりの中間的就労訓練プログラム」事業

期間・時期 平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月

目 的 就労訓練のなかに、自然環境関係の仕事を取り入れることで、就労訓練内容の幅を広げる。
人手不足の中山間地の現場を、若者が経験を積む機会に変えていく。

内 容 森林や里山の小さな仕事の現場をつくり、若者たちとともに作業に取り組む。訓練に参加するための奨励金を活動現場から生み出していく。

目 標 みどりの中間的就労訓練実施回数 月 2 回 計 20 回 参加者 60 人
事業を実施するための、寄付集めも行う。目標額 20 万円

④ 自主事業の、若者支援合宿 1 泊 2 日・2 泊 3 日の実施

期間・時期 平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月

目的 若者支援団体を利用する若者のための合宿プログラムは、効果が高く好評であるが、現状集中訓練プログラム参加者のみが利用でき機会が限られている。サポステ利用者などに向けたもう少し気軽な合宿プログラムを実施し、若者たちが合宿を通じて仲間と自信を高める機会をつくる。

目 標 年4回開催 各回参加者5名×4回=20名

8. 國際ボランティアの受け入れを通じた國際協力事業

① Conservation Corps プログラムへのアジア人ボランティアの受入。計4名。

② パラワンワークキャンプの開催

日本人ボランティアとともに、フィリピンCSの活動にワークキャンプで参加。フィリピンの自然環境を守るための協力を築く。Green Asia Partnership のファンドレイズとも連動し実施。

時期 平成31年1～2月

目 標 参加者 8名

10. ソーシャルプロモーション事業

① 会報誌の発行・ボラ募集情報の発行

期間・時期 会報：6月、8月、11月、2月 (年4回発行)

原稿締切：各月15日、発送日：最終週金曜日

目的 環境保全活動の必要性、若者の活躍、想いを広く社会に発信する。共感をひろげ、応援いただく方を増やす。Conservation Corpsに関する情報も発信し、プログラムの意義を広く伝える。環境分野で活動する人のインタビューなども記事とし、読み物としての面白さも高める。

内 容 ・活動、近況報告

・研究、論文の発信

・参加者募集や関連情報の発信

受 益 者 数 会員及び協力団体、発行部数100部程度

② メールマガジンの発行

期間・時期 毎月1日発行

目的 環境保全活動の必要性、若者の活躍、想いを広く社会に発信する。共感をひろげ、応援いただく方を増やす。Conservation Corpsに関する情報も発信し、プログラムの意義を広く伝える。参加者募集などの広報としても。

内 容 ・活動、近況報告

・参加者募集や関連情報の発信

・寄付やネットでできる応援などの呼びかけ強化

受 益 者 数 メールマガジン購読者数250人

③ ホームページの管理、更新

期間・時期 通年 毎週 1 回更新

目的 タイムリーな情報発信と、活動報告、ボランティア募集等幅広く。ボランティア募集、寄付募集ページの改訂は 6 月まで。その他のページは 8 月中旬までに完成。

内容 ・活動、近況報告 ・参加者募集や関連情報の発信

④ その他のサイトの管理、更新

期間・時期 通年

目的 タイムリーな情報発信と、活動報告、寄付のやりとりなどを幅広く行う。

内容 ・CANPAN (CANPAN ペイメント含む)

・Just Giving ・かざして募金

・Yahoo!ネット募金

⑥ 講演講師、研修講師の派遣

期間・時期 声をかけていただいた中で判断。社会の役に立てる内容であれば基本的に受けていく。

⑦ シンポジウムの開催

期間・時期 年数回

目的 「子どもの自然体験と里山」、「SDGs 達成への貢献」をテーマに 1 回ずつ実施。

内容 子どもの里山プロジェクトの重要性や有効性を客観的に発信できる内容に。

SDGs 達成に向けた協力の拡大を図れるような内容に

時期 月 、 月

目標 参加者 各回 50 人

財政基盤強化のためのアクション

① マンスリーサポーター100 人プロジェクト

・6 月～8 月 マンスリーサポーター 募集キャンペーンをスタート

② 子どもの里山寄付キャンペーン

・10 月～12 月で、子どもの里山寄付キャンペーンを実施する。

・サンタ de ランイベントとも連動させる。

組織基盤強化のアクション

① 会員 100 人に増やす

② 会員活動の充実

年間スケジュール

月	活動	イベント	運営	ファンドレイズ
4		未来会議 ふじやま縁側 たけのこ堀り		
5	CC春 しごとや集中合宿	エコフェスタ	理事会	マンスリー100人 キャンペーン
6	CC春 シティズン①② NTT栃木		総会 会報発行①	マンスリー100人 キャンペーン
7	CC春			
8	国際ユースワークキャ ンプ	羽ばたきクラフト	会報発行②	
9	CC秋 Forest workcamp シティズン③ ホントレ			
10	CC秋	創造の森イベント 美里学園祭イベント 富士通イベント		
11	CC秋 シティズン④ NTT栃木 集中合宿		会報発行③	サンタ de ラン集め
12		ECOテック		サンタ de ラン
1				
2	パラワンWC		会報発行④	
3				